

Vision と Strategy 戦略

医療・福祉経営の新時代と人財を創る

特集

本格始動の認知症施策推進5か年計画を追う

～地域包括ケアシステム構築に向けた認知症初期集中支援チーム、認知症医療支援診療所のモデル事業～

Part 1 医療・介護事業者は自治体と連携して
経営戦略を政策にマッチさせてほしい

Part 2 地域包括支援センター27カ所に
区独自の認知症専門相談員を配置

Part 3 認知症初期集中支援チームの活動
担当医師と看護師に聞く

Part 4 認知症カフェ開設で家族支援に成果
一家族同士が互いにわかり合える関係へ

私のVisionと経営戦略

慶應義塾大学商学部
教授

権丈 善一氏

医療福祉経営最前線
社会福祉法人あかね
(兵庫県姫路市)

セミナー案内掲載



2013 10

保健・医療・福祉サービス研究会

認知症初期集中支援チームの活動 担当医師と看護師に聞く

適切な初期支援がつくる認知症高齢者と家族のクオリティ・オブ・ライフ。初期の出会いで本人、家族の想いをもとに支援が始まり、継続される。モデル事業を担当する東京都世田谷区の桜新町アーバンクリニック医師の上野秀樹氏と看護師の片山智栄氏が、活動のあり方を語る。



桜新町アーバンクリニック
医師 上野 秀樹 氏

認知症の課題に二つの回答 モデル事業で展開へ

平成25年6月、認知症の人が462万人、さらにその予備軍が400万人存在するという衝撃的な数字が厚労省研究班から発表されました。65歳以上の高齢者の4人に1人が認知症もしくはその予備軍ということになります。私たち人類は高齢まで生きることが出来るようになった結果、避けられない認知症の問題に直面することになったわけです。私たちは「認知症の人が暮らしやすい社会をつくる」という

課題を突きつけられています。

大切なのは、認知症になっても安心して暮らせる社会をつくること、認知症になってもそれまでと同じように充実した人生を送れる社会をつくることです。

初期集中支援チームの活動は、この課題に対する回答の一つです。認知症の人を早期から支援し、住み慣れた地域での生活をつづけられるように環境調整、ケアマネジメントを行います。その活動で最も大切なのは、認知症の人の言葉を記録することです。認知症が進行すると、自分の意思を適切に表現するのが困難になります。早期から関わることで、認知症を持ちながらもその人がどのような人生を送りたいのかをその人の言葉で記録し、それを元に支援を

継続していくのです。

認知症にはステイグマがあります。認知症はなりたくない病気、なって欲しくない病気のトップでしょう。これでは、ちょっとおかしいと感じたときに、診断を受けよう、支援を受けようという気にはなりません。どうしたら早期からの適切な支援を実現できるのでしょうか。

必要なのは、認知症に関する啓発、それも「認知症になっても、早期から適切な支援を受ければこんなに充実した、すてきな人生を送ることが出来ます」というポジティブなメッセージを含む啓発です。そして、認知症の人、周囲の人が必要と感じたときに、適切な支援を手軽に得られるような社会環境をつくることなのです。



桜新町アーバンクリニック
ナースケア・ステーション所長・看護師 片山 智栄 氏

初期集中支援チーム研修で 見えた手探りの現況

て講義しました。
鷺見幸彦先生(国立長寿医療センター脳機能診療部長)は初期集中支援事業の具体的なスキームについて、方法や流れを踏まえ実践方法を詳細に説明しました。

研修1日目のテーマは「地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメント(DASC)とその活用方法」。筒井孝子先生(国立医療保健医療科学研究所(国立医療保健医療科学研究所)は「Community based care and integrated care、地域包括ケアを実践するにあたって認知症初期集中支援、認知症地域パスは最も適した課題であり、これが上手くいけば地域包括ケアとして各自自治体が地域づくりをすることが可能になるのではないか」と話していただきました。まったくその通りではないかと思われました。

2日目はチーム員だけに對する研修会とキックオフの目的で、鷺見先生による制度の説明。粟田先生は認知症疾患の説明。筒井先生は「今回の事業は成果を期待したものではなく、プロセスを検証したい」と述べました。

粟田主二先生(東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と介護予防研究チーム研究部長)はDASCの使用方法的なほか、症例を提示しながら認知症のそれぞれのタイプについて

国は、初期集中支援が何をすべきかのスキームは立てたものの、実際のケアの内容までには踏み込めていない印象です。認知症ケアに苦慮している現場、とくに地域包括支援センターの役割が重要ななかで今後日本らしい認知症ケアの方向性が見つかるとまでは手探りでの対応になります。認知症初期集中支援モデル事業で認知症ケアの標準化が進むにはまだ課題が多い印象を受けました。